いきいきまえばし人

前橋の歴史研究者
庭野 剛治さん・46歳
住吉町一丁目

人との縁から新しい発見を

前橋の歴史研究を長年続け、製糸業についても調査をしてきた庭野さん。幼少期には近所に製糸所があり、製糸業は身近な存在だった。

「夏になると製糸所から繭の煮える匂いがしていました。これが前橋の匂いなんだと子どもながらに思いましたね」

研究をするときは必ず現地を見に行くことにしている。

「廃業した製糸所に行き、当時の写真や生糸を巻き取る枠をもらったことも。何事も自分の目で確かめたいんです」

生糸は輸出する際、品質を保証するための生糸商標が着けられた。庭野さんはその商標のコレクターでもある。小学生の頃から集めた生糸商標は現在300枚近く。1月にはコレクションの一部を平和郵便局（平和町二丁目）に展示した。

「歴史を研究していると、人との出会いから新しいことを知ることがあるんです」と庭野さん。高祖父と高祖叔父が製糸場を営んでいたことを、庭野さんの新聞の投書を見た人が教えてくれて初めて知った。

「人と人が出会って歴史がもっと解明されていくといいですよね」

歴史をとおして人とのつながりが生まれ、新たな発見が生まれていく。庭野さんの歴史研究はこれからも続く。

カラダにいいこと＋1（プラスワン）

Vol.10　たばこ

問健康増進課
☎027-220-5708

健康まえばし21

健康まえばし21の詳細はこちらから

改正健康増進法についてはこちらから

市の健康増進計画健康まえばし21に基づき、7分野の健康づくりを紹介するこのコーナー。今回は「たばこ」です。

改正された健康増進法が4月1日から全面施行。多くの人が利用する施設は原則屋内禁煙となりました。そこで、法律の改正を契機に店内を全面禁煙化した飲食店、パーラーレストランモモヤ店長の日詰さんに話を聞きました。

法律改正を機に禁煙化しました（禁煙店の標識掲示は任意）

店長の日詰さん

Q いつから店内の禁煙を考えていましたか。

A 店には子ども連れの人も多く来店するので、かなり前から考えていました。しかし、創業は昭和31年。昔からの常連さんには喫煙者もいたため、なかなか踏み切れずにいました。今回の法律の改正が後押しとなり、店内禁煙を決めました。

Q 反響はどうですか。

A 今まで店内で喫煙していた人の中には禁煙を残念がる人もいましたが、理解してもらっています。家族連れや高齢者、健康に気を使う人たちからはとても喜ばれています。特に子ども連れの来店が増えたように思います。

4月1日から屋内での喫煙は、喫煙室の設置や標識の掲示などさまざまなルールの順守が必要となりました。店内で喫煙可能な飲食店には、喫煙できることが分かる標識の掲示が義務付けられています。標識を確認して入店してください。

クローズアップ CLOSE UP

記憶に残る体育大会に

南スーダン選手団が9月28日、荒砥中の体育大会に参加。前橋総合運動公園群馬電工陸上競技場・サッカー場で、800m走やリレーなどに出場しました。なわとび100m走では、初めての種目で苦戦する選手に、生徒が声援を送る場面も。スポーツを通じて交流を一層深めました。

歴史文化かおるまちへ

9月27日、中央公民館で歴史まちづくりシンポジウムを開催しました。歴史文化がかおるまちづくりをテーマに、基調講演や他市の取り組み事例の報告、パネルディスカッションを実施。絹遺産や重要文化財など、前橋の歴史文化を生かしたまちづくりについて意見交換をしました。

10年後の本市の姿共有

9月30日に本市の公式YouTubeチャンネルで、10年後の未来を市民と一緒に考え共に創っていくための、オンラインタウンミーティングを開催しました。このミーティングを皮切りに、ワークショップやシンポジウムなども開催します。

ミーティングの様子はこちらから